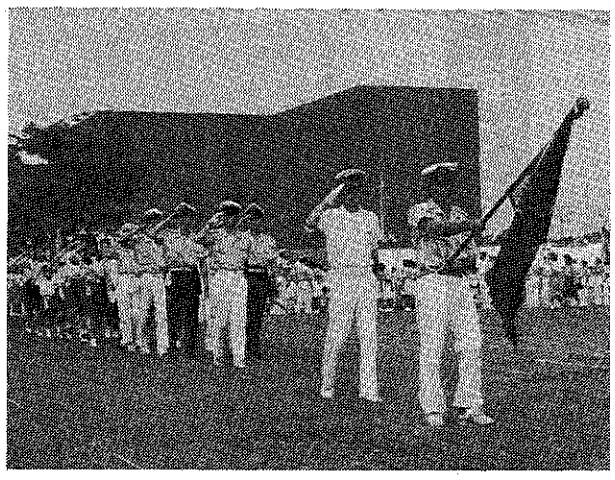
育連だより

第4号
川崎市
中原区上小田中
1313－1
川崎市
青少年育成連盟
電話
044-733-3951
編集発行人
佐近賢一

海洋少年団全国大会
茅ヶ崎市で開かれる
川崎海洋少年団

(社)日本海洋少年団連盟では、毎年、全国の海洋少年団がつどい、全国大会を開催しています。本年は、同じ神奈川連盟の茅ヶ崎団が主管団となり、常陸宮殿下同妃殿下をお迎えし、八月二日から四日の三日間開催されました。今回は全国から九十六ヶ団・約三千名の団員が集まり、手旗競技、水泳競技、カッター(ボート)競技及び友情のつどいが実施されました。

最初に行われた手旗競技には、受信競技と送・受信競技があります。受信競技は、一〇〇文字の受信をして満点が取れるかどうかを競いあいます。川崎団では十二名の団員が満点を取り、連盟より満点賞のバッヂを授与されました。しかし、手旗で五十文字の受信と送信を交互に八名のものがおこなう送・受信競技では、残念ながら満点はとれませんでした。



翌日におこなわれた水泳競技とカッター競技では、まず水泳、高校生自由形の部で三位に入賞し、銅メダルを獲得しました。他の中学生自由形、小学生平泳ぎ等でも上位まであと一歩のところまでの健闘をしました。

カッター競技(全長四米、で六人漕ぎのボートにより、タイムを競う)では、高校生の部男子が、第九組目で競技し、四艇中二位となる好成績をあげました。

そして最終日の夕方、参加者全員が茅ヶ崎中央公園に集まり、「友情のつどい」及び閉会式がおこなわれました。友情のつどいでは、川崎団の団員も全国各地の団員たちと記念写真を撮ったり、次に開催される全国大会での再会を約束したりして、思い出に残る楽しいひとときを過ごしました。つらかったこと、楽しかったこと様々ありましたが、団員一人一人にとって素晴しい思い出づくりができたと確信しています。

こども会連盟四十周年記念
野球大会開かれる
川崎子ども会連盟

昭和二十六年子ども会連合会から始まり、昭和二十七年七月子ども会連盟となり今年で四十年を迎えることとなりました。

子ども会の行事も年々難しいことが多くなってきましたが、昭和二十七年から子ども会連盟の行事として引き継がれてきた野球大会と羽つき大会は今年で四十回を迎えた。

四十周年記念大会である本年は、改装なった川崎球場で全区子連統一総合開会式で人文字で祝意を表すことになり五月三日開かれました。

五月晴れの好天に恵まれ、陽光が改装成った人工芝によく映えた川崎球場に全市の子ども会野球チーム、一九八四チーム三〇〇〇名の小中学生と指導者五四〇名が集い、式典に先立って緑のグランドに「祝　40回大会　子ども会」の人文字を描いた。上空には東京新聞のヘリコプター「おりずる」が祝賀飛行し、写真撮影をして大会を盛り上げてくれた。

グランドでは、川崎市消防音楽隊の演奏があり四十周年を祝ってくれた。

この後、プラカードを先頭に全選手が市消防音楽隊の演奏で内野グランドまで力強く行進し、式典に入った。

中島連盟長の挨拶の後、麻生区子連から順に優勝旗が返還された。続いて、来賓として出席された高橋清川崎市長から「怪我をしないよう元気に頑張って、再び川崎球場へ勝ち上がってきて下さい」と選手たちへ激励のことばが述べられた。続いて、東京新聞事業局がヘリコプターから投下された祝辞を読み上げた。

最後に、前年度優勝の幸区子連、塚越二丁目チーム主将の吉田貞春君が「練習の成果を力一杯発揮して少年らしく明るく元気にプレーすることを誓います」と力強く選手宣誓を行った。

この大会に対して、富士コカコーラボトリング、川崎岡田屋モアーズ、川崎さいか屋、川崎東京会、ロッテ球団、東京中日、川崎信用金庫、東京電力、東京ガス、日本交通公社、ナガセ、ケンコ、ボール各社からご支援が寄せられたことに深く感謝申し上げます。

決勝戦は八月十七日、十八日、同球場で行われ、小学生八チーム、中学生七チームで激突した結果、小学生、観音子ども会(川崎)、中学生、小向西町子ども会(幸)がそれぞれ優勝した。

なお、記念式典は十一月二十四日(日)午前十時からエポックなかはらで挙行される予定です。

育成連盟理事長に佐近賢一氏就任
佐近賢一氏のご挨拶

増子前理事長から理事長職を引き継ぎ約半年が過ぎました。この間加盟四団体が、その各々の機能を十分に発揮し各種の活動を展開するとともに、四団体の連絡協調と相互の友好啓発の推進に努力され、青少年の健全育成に大きく寄与されているのは、誠に心強い限りであります。

現在の社会は、大きく変化しておりますが、それに伴い人間の変化も起っております。人間の変化で一番大切なのは、「大人の幼児化」現象であるとローレンツという人が言っています。ローレンツは、文明が発達すればする程大人は幼児化し、その結果、一には依存心が増大し、二には耐性が低下すると言っています。

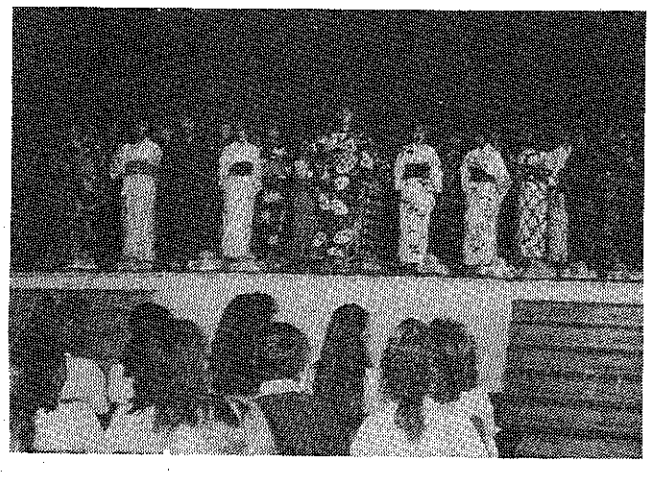
最近、依存心の強い青少年、耐性のない青少年が増えて来ていると言われますが、これはその前兆とも思われます。

このような状況を見ますと、私ども育成連盟の果たす役割は、ますます重要になるとともに、その責任の重大さを痛感いたします。

次代をになう青少年の健全育成のために、各団体の団体長さんをはじめ役員の皆様方の一層の御活躍と御健勝を祈念いたしまして御挨拶といたします。

姉妹都市ウーロンゴン派遣報告
ガールスカウト川崎連絡会

平成三年三月二十五日から四月二日まで、オーストラリア・ウーロンゴン市に、スカウト・リーダー三十五名、ガールスカウト川崎連絡会三十周年記念海外派遣に参加することが出来ました。



二十五日、日本を出発する時は、冷たい雨が降る肌寒い日でしたが、シドニーに着くと、青い空、暖かい日射しに迎えられました。

ガールガイド本部訪問、訪れるのを待っていて下さり、すぐに紹介、ティータイム、本部内案内も会長自らして下さいました。

シドニーからバスで一時間半ほどでウーロンゴン市、市長表敬訪問では、市関係、学校、ガイドの方々を紹介され、ここでも大変な歓迎を受けました。

宿泊場所のガイドのキャンプ場では、手作りの食事を用意して下さいました。

夜は、ガイドの方々と日本から準備をした歌・踊り(炭坑節・花笠踊り)・茶道・コマ・折り紙・習字等で楽しく交流をしました。

学校訪問は、ダプト、カナフカの二校を訪問しました。ダプトハイスクールでは、校長先生が一人ひとり握手をし、校内を案内して下さり、とても広い学校の中にある日本の庭に記念植樹の「モミジ」も用意されていました。

体育館で歌と踊り、踊りは生徒も輪の内に入り大変盛り上りました。

カナフハイスクールでは、ランチをごちそうになり、日本語で印刷された歌詞カード・大判の折り紙が用意されており、歌・踊り・折り紙も全員で楽しみ、最後には浴衣を先生・生徒に着せての記念撮影もしました。

派遣に参加した全員に実り多い思い出ができ、これからの学校・スカウト活動等に生かされることが沢山あったことと思いました。

終りになりましたが、姉妹都市ウーロンゴン市へ訪問できましたのも、川崎市当局のご指導とご支援のお蔭と厚くお礼と感謝を申し上げます。

ビーバー祭り開かれる

ボーイスカウト川崎地区協議会

ボーイスカウト川崎地区協議会（堀田利則会長）のビーバースカウト（小学一～二年生）が一堂に会し、団の交流と友情の輪（みんなと仲よく）を深めることをテーマに、第二回ビーバー祭りが七月七日(日)住吉小学校で開催された。

午前九時四十五分、協議会長、地区委員長そして参加団の父兄の見守る中、隊長、隊旗を先頭に各団スカウトの堂々たる入場行進から始まり、会場いっぱいにビーバースカウトの大きな輪が見事に完成し、入場行進に花を添えた。

堀田協議会長、坂谷地区委員長の激励の言葉に続き代表スカウトの元気いっぱいの宣誓、そしてスカウト全員のビーバーコールを行い競技が開始された。

競技は、各団を分け対抗戦形式で行われた。風船運び、おやつゲーム、障害物、キャタピラーゲームなど次々に競技が進行し、その間スカウトが一生懸命競技に集中している姿に拍手を送り、また、ズッコケ姿に笑いがこぼれ、会場全体がスカウト、父兄の声援で埋尽された。

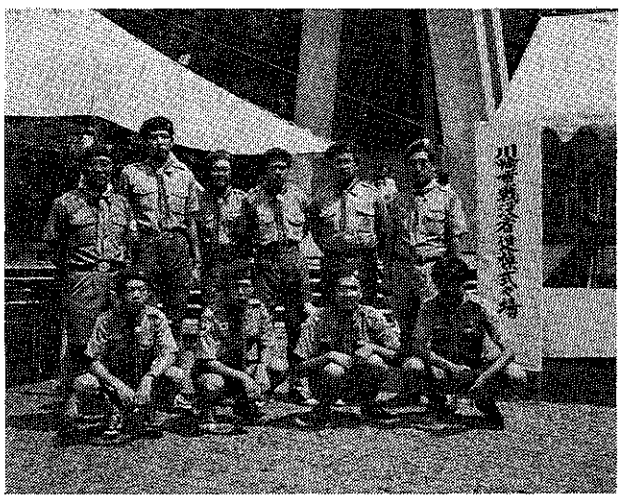
特にスカウト、父母が全員参加して行なったつな引きでは親子が力を合わせて引く姿に、そしてスカウト父母の代表者で行なった組対抗リレーの真剣な姿に感激した。

今日の一日を振りかえってみて、ボーイスカウトのヒヨ子であるビーバースカウトたち、将来立派なスカウトにそしてリーダーになってくれると感じたビーバー祭りでした。

（川崎第五十五団　町田良治）

戦没者追悼式に参列・奉仕

ボーイスカウト川崎地区協議会

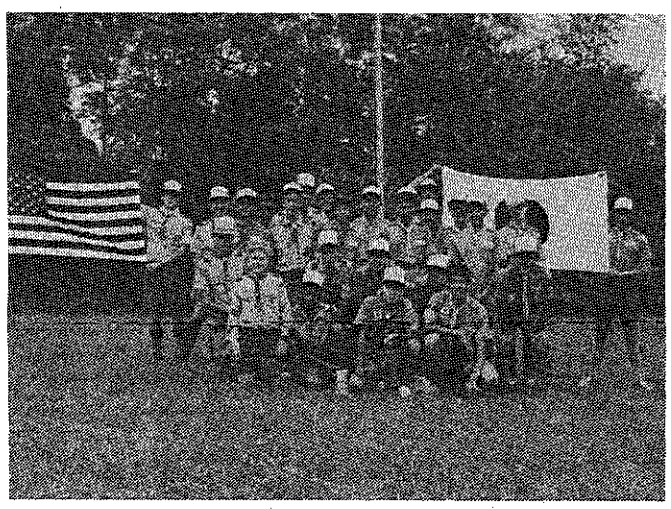


八月十五日(水)は「戦没者を追悼し、平和を祈念する日」にあたり、正午から夢見ケ崎公園内にある川崎市慰霊塔前に川崎市長・市議会議長・戦没者遺族代表・市関係者が集い、全国戦没者追悼式（日本武道館での）にあわせて追悼式が挙行された。

私共ボーイスカウト川崎地区協議会からは、河合副会長、坂谷地区委員長はじめスカウト代表八名が参列し、慰霊塔に献花して戦没者ならびに戦災死者のご冥福を祈り、併せて恒久平和を祈願した。

ボルチモア交流派遣を終って

ボーイスカウト川崎地区協議会



第7回派遣隊長　長谷川博之

今年で7回目となったこの行事も無事終了することができ、川崎市役所の関係者の方々並びにボーイスカウト関係者の方々に多大なご協力、ご援助を頂き心からお礼申し上げます。

この行事は両市のボーイスカウトが合同で企画立案そして実行するプログラムで、奇数回目は川崎市から、偶数回目はボルチモア市から互いの都市を訪れ、相互理解を目的とした交流を行ってきました。

このような背景から互いの受け入れ体制は、年毎に充実してきているのが現状で、今回の場合も従来にも増しての大歓迎を受けました。

ボ市側では、姉妹都市委員会のMace Miyasaki副委員長と昨年の派遣隊長であったHowerd Rotherford氏副長のCharles Harlan氏が我々の受け入れ窓口となり、州知事並びに市長訪問を初めとする素晴らしいプログラムを提供してくれました。また、州政府や市長訪問では名誉市民章などが私達に授与されました。

プログラム全体では前述のスタッフの他に、Frank Cook氏、Stuart Bellをはじめとする来年の派遣隊のリーダー候補が数人ほどがこのプロジェクトのスタッフとして活動してくれました。これは、次の派遣につなげようとするボ市側の意気込みの表れであり、私共としてもこれに応えるようにしなければいけません。

また、各ホストファミリーがプログラムを分担して受け持ちながら全体の行事を進めて行くと言うボ市側の運営方法は、まさに皆で参加する姉妹都市交流行事そのものでした。そして、Wellcome PartyやSayonara Partyには2局のテレビ取材と2社の新聞取材があり、さらにボルチモア・オリオーズの野球試合観戦では途中で正面の大電光掲示盤にWELLCOME KAWASAKI BOYSCOUTの表示が出て拍手を受けました。これらは、ボ市側がこの行事をさらに広めようとする意欲の表れではないかと感じました。

来年はボルチモアから川崎へやってきます。彼等が素晴しい思い出を持って帰れるように微力ではありますがこれからもこの交流行事に携わって行きたいと考えております。

今回の派遣に際し、御協力を戴いた皆様に改めて心からお礼を申し上げ、第7回派遣隊の帰国報告とさせていただきます。

ボルチモア女子バレーボールチーム受け入れ事業報告

青少年教育課主査　藤井賢実

今年度七月十七日(水)から七月二十六日(金)まで十日間、ボルチモア市女子バレーボールチームの一行は選手十一名、監督、コーチ三名の十四名が来川されました。

主な活動としては、この期間訪問、学校訪問、バレーボールの交流試合、東京ディズニーランド、東京都内及び川崎市内見学などを行いました。

学校訪問では、茶道・料理・生徒との交流などを行い親善を深めておりました。

バレーボールも勝負よりも、スポーツを通して友情と信頼を深めながら、交流の輪を広げておりました。

また、東京ディズニーランドや東京都内、川崎市内などを見学し、伝統的な建築物、日本独特の景観の素晴しさに感動しておりました。

子ども達は、期間中、ホームステーをし、日本の生活を味わい、ホストファミリーの人達にとても良くしてもらい最後のお別れの時はつらいようでした。

ボルチモア市主催のさよならパーティーでは、交流校の関係者を呼んで、楽しい一時を過し、更に交流を深めました。会場準備等でいろいろとご協力いただきましたボーイスカウト・ガールスカウト・青少年使節団の方々ありがとうございました。

地区ラリー開かれる

ボーイスカウト川崎地区協議会

本年は、こどもの国で九月二十九日(日)、まずまずの天候の中、地区内のスカウト・リーダーら約一〇〇〇名が参加して行われました。午前九時受付開始、参加章など手にし、グループに分かれ、太平洋からスタート、園内に設定された七つの海（ポイント）で、課題に挑戦、悪戦苦闘してゴールのベンガル湾に全員がゴールインした。

表彰式では、キャンプ中宿舎の火災の消火に活躍した二十六団、四十五団が表彰された。また、二十三名のスカウトが表彰された。

坂谷実行委員長の挨拶のあと各ポイントで優秀であったスカウトに賞品が渡された。事故なく終了した。

事務局だより

育成連盟加盟各団体及び行政の人事異動に伴い育連の役員等にも異動がありましたのでご報告いたします。理事長については一面をご覧下さい。理事では井口、河合両氏が退任され、大木作吉、坂谷昭一両氏が就任され、評議員では石野、大木、飯塚、坂谷、伊奈、落合、伊藤各氏が退任され、かわって小保方健次、西田保、河合武夫、屋明貞、西葉子、佐伯法康各氏が就任されました。また事務局長でありました佐伯氏にかわって荻沼典之氏がその職につかれ、事局員の西、井本両氏にかわって清水紀子、大島武巳両氏がその任につかれました。

育連の中高生部会についてですが、平成三年度の参与、部会員の推薦が加盟各団体からなされましたので近日中に活動がスタートする予定です。部会員の活躍に期待すると共に皆様方のご理解とご支援とをお願いします。